

タイトル	表紙・目次・論文扉・奥付
著者	
引用	年報新入文学(13)
発行日	2016-12-25

新 人 文 学

Annual Bulletin
of the
New Humanities
Vol. 13

【巻頭言】

ジョン・ラスキンについて
川上武志

【論文】

壺演をめぐる伝承について
追塩千尋

イエイツの「イニスフリー湖上の島」
川上武志

日本語スピーチ授業における
自己評価活動ー中国の大学生によるポートフォリオからー
鳥井俊祐

◎【研究ノート】

日本語教育における「個の文化」論に
関する一考察

森 良太

◆【成果と展望】【書評】

テレングト・アイトル『詩的狂気の想像力と海の系譜
——西洋から東洋へ、その伝播、受容と変容』

柴田 崇

石川博樹・小松かおり・藤本武編
『食と農のアフリカ史ー現代の基層に迫る』

手塚 薫

【彙報】

平成二十七年度 大学院文学研究科 学位論文題目一覧
文学研究科教育・研究発表活動覧
編集後記



【巻頭言】

ジョン・ラスキンについて 川上武志……………002

【論文】

壺演をめぐる伝承について 追塩千尋……………008

イエイツの「イニスフリー湖上の島」 川上武志……………38

日本語スピーチ授業における

自己評価活動——中国の大学生によるポートフォリオから——

鳥井俊祐……………129
(001)

●研究ノート

日本語教育における「個の文化」論に関する一考察 森 良太……………099
(031)

◆成果と展望【書評】

テレングト・アイトル『詩的狂気の想像力と海の手紙』

——西洋から東洋へ、その伝播、受容と変容—— 柴田 崇……………62

石川博樹・小松かおり・藤本 武 編

『食と農のアフリカ史——現代の基層に迫る』 手塚 薫……………68

【集報】

平成二十七年年度 大学院文学研究科 学位論文題目一覧……………130

文学研究科教育・研究発表活動覧……………137

編集後記……………138

年報
新
人文学

【第十二号】
二〇一六年十二月発行
目次

Annual Bulletin
of the
New Humanities

Vol. 13

Annual Bulletin of the New Humanities

Vol. 13

December 2016

Contents

Foreword

Takeshi
KAWAKAMI About John Ruskin

Articles

Chihiro OISHIO About Legends on Ichien

Takeshi
KAWAKAMI Yeats's 'The Lake Isle of Innisfree'

Shunsuke TORII Self-Evaluation in Japanese Speech Class: Survey of Student's
Portfolio Activities at University in Zhejiangsheng, China.

Essays

Yoshihiro Mori A Consideration on a View of "Ko-no-Bunka" (The Culture of
One's own) in the Japanese Language Education

Book Reviews

Kaoru TEDUKA *A History of Food and Agriculture in Africa: Exploring the Basis
of Modernity*, Hiroki ISHIKAWA, Kaori KOMATSU, Takeshi
Mutou(eds.), Showado, 2016.

Takashi SHIBATA Terenguto Aitoru, *The Imagination of Poetic Madness and a
Genealogy of the Sea: From the West to the Transmission, the
Reception and the Transformation*, Gendaitosho, 2016.

Notes

Editorial Notes

論文



壺演をめぐる伝承について 追塩千尋

イエイツの「イニスフリー湖上の島」 川上武志

日本語スピーチ授業における

自己評価活動―中国の大学生によるポートフォリオから― 鳥井俊祐

◆表紙の「ふくろう」について

表紙に描かれている「ふくろう」には、二重の意味が込められています。ひとつは古代アテネの「ミネルヴァのふくろう」に由来する、「知恵ないし学問」の象徴という意味です。哲学者ヘーゲルが、「ミネルヴァのふくろうは、日の暮れ始めた夕暮れとともに、はじめてその飛翔を始める」と述べたことは、つとに有名です。

もう一つの意味は、北海道に生息する天然記念物「シマフクロウ」に由来しています。シマフクロウは、北海道のなかでも手つかずの自然が残っている場所にしか生息しませんが、その表情には思慮深い哲人を思わせる威厳があります。古来アイヌの人たちは、この鳥をコタンコロカムイ（村の守護神）と呼んで神聖視してきました。

本誌は、この「ミネルヴァのふくろう」と「シマフクロウ」にあやかっ、北の大地から新しき学問の地平をきり拓くべく、大いなる飛翔の場たらしめるものです。

年報 新人文文学〔第十三号〕 Annual Bulletin of the New Humanities

発行日——平成二十八（二〇一六）年十二月二十五日 発行

編集者——北海学園大学大学院文学研究科『年報 新人文文学』編集委員会

北海学園大学大学院文学研究科内

〒〇六二―八六〇五 北海道札幌市豊平区旭町四丁目一 番四〇号

電話（〇二）八四一―一六二〔代表〕 F A X（〇二）八二四―七七二九

編集委員——大石和久＋柴田 崇

発行者——須田 一弘

発行所——北海学園大学大学院文学研究科 札幌市豊平区旭町四丁目一 番四〇号 電話（〇二）八四一―二六二〔代表〕

